



校章の由来

県立三中を意味した三つの剣を組み合わせ、初代大屋校長の考で剛健・真剣・勤儉の三けん、更に智・仁・勇の三徳を兼ねた象徴として用いられて来た

厚高同窓会報

<第48号> 2014年(平成26年) 5月1日(木) 発行
<http://www.atsukou-dousou.org>

旧制中学卒業者 3,915名
新制高校卒業者 25,708名
合 計 29,623名

発行
神奈川県立厚木高等学校同窓会
編集
厚木高等学校同窓会広報委員会
TEL 046 (221) 4078
FAX 046 (222) 8243



新たな"絆"の芽生え

(平成26年度 厚木高校入学式より)



躍進の時——次なる高みへ



同窓会会長 石川 範義 (高10回)

陽春の候、皆様にはますますのご健勝の事とお喜び申し上げます。つい先日までは、予期せぬ2度にわたる大雪に難儀していたとは思われない「春爛漫」の卯月となりました。昔通いし「尼の泣き坂」は、今が盛りの桜が乱舞し、新入生の登場を遅しと待っています。

過日3月3日、第66回卒業式が厳かに肅々と挙行されました。会長として3度目の出席となりましたが、会を代表して卒業生315名に卒業証書授与への祝辞と同窓会入会への謝辞を申し上げ、同時に名誉ある「茅賞」を井上乃茂さんに贈呈して参りました。

式の最中にそっと目を瞑ると、あの厚高時代に旅しているという臨場感と何とも言えない幸福感が湧いて来るではありませんか。いつにもまして記憶に残る式となりました。

さて、私の任期もこの6月までとなりました。この3年間、創立110周年を経て同窓会活動も皆様の御協力を得ながら、更なるステップアップを図る事が出来ました。感謝申し上げます。施策の一つである「さくら戸陵会」は昨年11月創立総会を開き新たなスタートを切ることが出来ました。この事は、在校生の男女比が半々という現況の中、将来への布石として大きな意味を持っています。

そして「応援団の復活」、田中均校長を始めとする学校の協力のもと、4月より「応援委員会」が発足いたします。野球の応援、全国大会等への壮行会などで、校歌・応援歌の指導にあたります。今年の校歌祭でのコラボレーションが今から楽しみです。そうなる、あとは野球で甲子園という事になります。奇しくも本日、選抜高校野球が京都・龍谷大平安高校の初優勝で幕を締めましたが準優勝は大阪・履正社でした。この履正社と1回戦で戦ったのが、「21世紀枠」の都立小山台高校です。毎年、国公立大学に100名を越す合格者を出す本校と同様に『文武両道』『質実剛健』を掲げる進学校でもあります。あの「川村丈夫時代」(夏の県大会ベスト8)の成績を残せば決して夢ではありません。

文部科学省の「SSH」(スーパーサイエンスハイスクール)の指定とあいまって文武両道を追求してこそ道は大きく開けるものと信じています。母校・厚木高校そして同窓・戸陵会とも次の高みへ。燈々無尽...



第1回総会はスカイツリー見学と三栖邦博氏の講演(25年11月30日)



紅葉にも親しめる「憶い出の杜」(25年11月16日)



毎回大盛況の「地引き綱大会」(25年5月4日)

本部活動報告

平成25年度の主な事業報告

平成25年度も各支部会総会などを中心に、積極的に活動が繰り広げられた。

平成25年度と同窓会事業は、5月4日に藤沢戸陵会の主管による「地引綱」からスタート。6月22日には、厚木市商工会議所大会議室において平成26年度通常総会開催され、事業計画や予算を審議した。

恒例の講演会には史上最年少(恐らく)の講師として島田悠司君(高59回、慶大大学院生、この年の卒業式で「塾長賞」を受賞)が登場し、東日本大震災の被災地支援にかける思いを熱く語った。

秋には、お天気に恵まれない会と揶揄されていた愛川戸陵会主管の「憶い出の杜」に親しむ会が、故

佐々木力夫愛川戸陵会前々々会長の墓前でのお天気乞儀式の功あり、11月16日(土)ポカポカ陽気のなか66人の参加者を得て、盛大に開催された。会場は4人の旧制中学の大先輩も参加し、伝統校らしく質実剛健で重厚なものとなった。

平成25年度の特徴は「厚木高校同窓会」の名前がマスクミを通じて広く伝えられたことである。5月24日から朝日新聞の地方版に「青春スクロール・母校群像記」の連載が始まり、多くの同窓生が紙面を飾った。

また、10月4日(金)の夜9時からTBS系で「同窓会」有名人「母校へ帰る」が放映された。番組では、名取裕子(高28回)と六角



名取裕子と六角精児が母校中庭で恩師・大橋有海先生と再会

OB会も参加したが、大団旗の旗手を難波浩氏(高11回)が務めていたことは、番組の密かな話題として語り継がれている。なお、平成26年3月に定年退職を迎えられた田中均校長には、在職中は各支部総会に出席をいただいたこと、同窓会活動にご理解ご協力をいただいたことに謝意を表すものです。

お知らせ

総会は6月21日(土)

平成26年度の通常総会及び懇親会を次の通り開催します。

■日時/6月21日(土) 午後1時より

■会場/厚木商工会議所 5階大会議室

■会費/3000円(懇親会費)

■講師/平野健一氏(高25回、徳間書店代表取締役)

■振替「危機の出版界の今」

同窓生の皆さん、今年の校歌祭は横須賀会場ですが、「校歌」と「第

『第9回青春かながわ校歌祭』のご案内

「二応援歌」と「健児は起(た)てり」の三曲を一緒に合唱しませんか。応援団OB指揮協力と吹奏楽部OBの伴奏に合わせて、世代を超えた同窓生と現役生と共に歌う校歌祭に参加されれば、必ずや皆さんに「戸室の丘の青春時代」を楽しく振り返るひと時となることでしょう。大勢のご参加をお待ちしています!

■日時/10月12日(日)11時半開演

■会場/よこすか芸術劇場

○練習日/8月下旬、厚木高校中庭にて○参加申込/各戸陵会支部取りまとめ○本厚木・横須賀間往復バス予定、夕刻戸陵会主催の交流・懇親会計画あり。



「青春かながわ校歌祭」も今年で第9回

さくら戸陵会

スカイツリーの足元で

第1回総会を開催

会長 大井 理恵子(高18回)

同窓会活動における女性会員の連携強化と親睦を深めることを目的とした女性組織「さくら戸陵会」がたち上がりました。

厚木高校創立110周年記念コンサートにオペラ歌手森口賢二氏(高44回)のご出演をいただきましたように、当戸陵会は同窓生の

いわば応援隊となり、講演会の講師としてお呼びしたり、観劇やコンサートに出かけたりして、同窓生の活躍を盛り上げ、且つ会員相互の親睦を深めるための活動をして参ります。

11月30日(土)に浅草寺近くの台東区民会館で第1回の総会を開

催し、事業としてスカイツリー見学が実施されました。総会後スカイツリーを設計した(株)日建設計の元会長三栖邦博氏(高11回)にスカイツリーの芯柱のお話を含めて講演していただき、三栖氏の同級生の参加もあって、和気あいあいの中で総会が終了し、スカイツリーへと移動しました。帰りのバスの中では校歌の大合唱で大いに盛り上がり、相州健児の熱き心が戻って来ました。

現在会員が73名となりました。各支部戸陵会総会や同窓会の行事に「さくら戸陵会」の会員も参加していただくためにも、情報の発信が必要と考えています。

有料頒布中

『同窓会員名簿』

A4判・512ページ/平成23年版/頒価4500円(送料込)

『戸陵百年の歩み』

歴史編612ページ/写真編255ページ/2冊セット・ケース入/頒価5000円(送料込)



『戸陵百年の歩み』

※申し込み問合せ

事務局 伊藤まで

☎090・4626・4083

※振込先

横浜銀行厚木支店

普通口座 6082219

厚木高校記念基金

特集

厚高とオリンピック

岡崎勝男氏(中9回)から川村丈夫氏(高43回)まで

2020年夏季オリンピックの開催地が東京に決定。昨年9月8日の早朝、このニュースが日本中を沸かした。その中に、49年前の東京オリンピックを感慨深く懐かしむ厚高OBたちがいた。厚高とオリンピックの関わりを紐解くと、古くは1924年(大正13年)のパリオリンピック陸上競技の5000mに、当時外交官としてパリに在勤中の岡崎勝男氏(中9回、外務大臣、第3代同窓会長、故人)が決勝進出の大健闘。近くは、1996年(平成8年)のアトランタオリンピック野球競技で、日本の銀メダル獲得に大きく貢献したのが、当時日本石油野球部の川村丈夫投手(高43回、現横浜DeNAベイスターズ投手コーチ)である。

1964年(昭和39)の東京オリンピック。約10万人の手によって行われた国内聖火リレーのランナーに、厚高の陸上部員6名が選ばれた。

現在市内在住、在勤者は小俣久氏(高17回、当時3年)、小島富司氏(高18回、同2年)、首藤(旧姓井上)二三夫氏(高19回、同1年)の3人。

10月7日、代表が走るの国道一号线沿いの茅ヶ崎高校前から上正寺前までの1.8km。約20人のランナーの先頭でトーチを任せられたのは小俣氏。



▲市内温水に住む小俣氏
▼厚木市代表の聖火ランナー(右が小俣氏、左が小島富司氏)



聖火はトーチ走者の小俣氏へ

当日は、汗流浹いっぱいの人の波、日の丸の小旗と声援に「えらいことになった」と同時に「途中で消えたらどうしよう」という心配と、次の走者に渡したときにほっとしたことだけは今でも覚えている」といふ。

この東京オリンピックにバレーボールの競技役員として「出場」したのが、当時の厚高教師、小島菊代先生(中36回)。その時の様子もよきつかけとなる感動を体験させてくれた厚木市と文化会館に対し、

の東京五輪に何とか出たいと念じていたが、勿論実力的に無理な少年の夢であり、その五輪も戦争で返上された。

戦後、昭和39年の東京五輪は陸上の選手としてではなく、バレーボールの競技役員として参加する

戸陵会番外編

同窓を母体に誕生し、16年目へ

厚木シアタープロジェクト(ATP)市民応援団



劇団扉座を主宰する横内謙介氏

文化創造という恩返しをしたいとの想いから、この活動が始まりました。

今こそ劇団扉座の名前は厚木市民に知られるようになりましたが、文化芸術は一夜にしてならず、今日まで継続するには舞台裏の大きな力が必要でした。横内氏のこの活動を発案段階から支えてきたのが特に高16、20回の厚高の先輩方で、後援の組織作りから広報宣伝まで、それぞれの人脉を通じて短期間のうちに準備を整えました。この後援組織はATP市民応援団と名乗り、以来15年以上にわたってこの活動を支えています。もちろんオープンな組織ですので一般の仲間も多いのですが、その中心

ことが出来、横浜の文化体育館、東京の駒沢体育館の2会場で任務についた。国立競技場での総合開会式の感激はもとより、東洋の魔女たちの大健闘と金メダルは、日本人の血を沸かせた。しかし、決勝で敗れたソ連チーム控え室での

号泣の声は、今でも私の耳に残っている。勝負の世界の厳しさを心から知った。大会には多くの戸陵出身者が役員として参加したが、あれから50年。次大会は6年後。思えば感無量のものがある。」

広報委・池田 清(高19回)

ではやはり同窓生が固いスクラムを組んでいるのです。

1998年、演劇ワークショップを開始。同年9月プレ公演を経て、翌年4月近藤正臣氏をゲストにATP第一弾「アゲイン」怪人二十面相の優しい夜」を発表しました。以来、本年4月の「つか版・忠臣蔵」に至るまで、これまで上演は26回を数えます。併せて小学生への出前演劇ワークショップを実施。小学校の体育館にて授業時間内に行うこのワークショップは、わずか2時間のうちに子ども達の表情が光り輝き、観る側も思わず感動する素晴らしい内容で、平成年度には厚木市教育委員会の新規事業の一環として「人づくり演劇教室」の名称で広く推進されることになりました。これらの活動は県内教育関係のみならず全国からも注目を集め、小中学校の教師対象のワークショップにも発展。



ATPを紹介する『広報あつぎ』(1998年9月1日号)

ワークシヨップが対象をさらに広げる一方で、出前ダンス講座や児童鑑賞用「トラオ」の公演を積み重ね、隠れたところで演劇文化の草の根活動が地道に続けられま

13代会館30周年記念市民ミュージカル「リバーソング」を成功させ、さらにオーディションで選抜した小中学生を対象とする「あつぎ舞台アカデミー」の発足へと繋がります。現在ここからは大手プロダクションに合格する若きアーティストが果立つまでになっています。横内氏はあつぎ文化芸術特別大使、そして厚木市文化振興財団の芸術監督に就任。映画祭をはじめ、演劇以外への仕掛けも次々と芽を出し、厚木の文化育成事業の中心で活躍されています。

気がつけば、同窓である岡森諱氏(高32回)や六角精児氏(高33回)を始め、扉座の若手劇団員がTVや映画で活躍するようになりました。ATPの発足当時、すごい情熱で走り回っていた先輩方も、今ではお孫さん連れて、「一見落ち着いたように思えますが、情熱と我がままは一向に衰えず」。そして、この不思議な縁は高30回、高40回へと繋がりますが、ATP市民応援団は各支部の横断的チームとして、戸陵会の番外地を自由に闊歩しています。

ATP市民応援団・事務局
藤野 心(高34回)



発足当時のメンバー(ATPプレ公演の頃)

学校情報

本年3月に田中均校長が定年退職され、4月の異動で新たに佐藤信行校長(神奈川総合高校)をお迎えしました。また、宮内克人副校長が茅ヶ崎高校の校長にご栄転になり、本校出身(高32回)の熊坂和也副校長(相模向陽館高校)が着任されました。同窓会校内役員としてご尽力いただいた中山鉄也先生(高29回)が有馬高校、内田憲夫先生(高30回)が上溝高校へそれぞれ転勤になり、希望ヶ丘高校より数学科の川瀬順次先生(高24回)、上溝南高校より社会科の谷田和久先生(高29回)が着任されました。

厚木高校着任にあたって



校長 佐藤 信行

4月1日付け定期人事異動により、神奈川総合高校より着任しました。神奈川県立学校の異動に関する内示は、毎年3月下旬に教育長から直接伝えられます。教育長からは、異動先の学校名及び職

名と、その学校の特色や期待していることなどが伝えられます。時間にして1分ほどですが、校長にとってはその言葉を大変重く感じると同時に、様々な事が頭を過ぎるものです。私は厚木高校という学校名を聞いた瞬間、2つのことが頭に浮かびました。ひとつは、大変伝統のある学校で卒業生が社会のリーダーとして活躍している

同窓会のご支援に感謝



前校長 田中 均

平成23年4月1日、伝統ある厚木高校の校長を拝命し、素晴らしい生徒と一生懸命な先生、保護者の皆様と同窓会の皆様のご支援を受け、何とか次の校長にバトンタッチすることができました。

この間、念頭においたことは、県央の雄にふさわしい教育課程編成と学習環境の整備で、授業改善の取組やSSHの指定、入学者選抜における特色検査の導入などはその一例です。教職員の理解と努力があればこそ、こうした教育課程編成の改善もできたと考えております。学習環境の整備に関しては、

ということ。もうひとつは、平成25年度からスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定され取り組んでいるということでした。厚木高校は創立110年を超える歴史ある学校ですが、単に時を重ねて来たのではなく、その時代その時代で学校に求められていることを敏感に察知し、前進して来たものと思います。伝統を受け継ぐというのは、古い伝統のみを大切に守るのではなく、常にその時代に即した感覚で前進する努力を

身を引き締め、三たび母校へ



副校長 熊坂 和也(高32回)

この4月1日に、尼の泣き坂を正門に向かって歩きながら、満開の桜を見上げて、しばし足を止めました。厚木高校は私にとって母

校であり、その後、数学科の教員としても9年間、生徒とともに過ごした学校でもあります。一時を懐かしさと感慨にふけりました。かつて勤務していた当時の厚木高校は「地域のリーダー」を育成することを目標に掲げて、改革の取組を進めていました。今は「次世代を担うリーダー」の育成に向けて、SSHをはじめとした様々な学力向上の取組を展開しています。

しなければいけません。前例踏襲に陥るのではなく、現実を見つめ直し、常に新たな可能性を探ることによって、伝統が引き継がれていくものだと考えています。そんな意味で、SSH事業という新たな事業を展開して行くということは、厚木高校の更なる発展をもたらしてくれるものと思っています。そんなタイミングで着任したことを幸せに思うと同時に、厚木高校の発展のため全身全霊を傾けて行きたいと思っております。

授業は楽しく やりましょう

数学科 川瀬 順次(高24回)



希望ヶ丘高校より約半世紀ぶりに母校である厚木高校に着任いたしました。

高校時代は朝6時に起き、20キロの道のりをバスに揺られ宮ヶ瀬から1時間かけて通学しました。土山峠でバスがエンストしたり、シカやサルが道を塞いで、時間が掛かったりすることもしばしばありました。また、大雪が降るとバ

30年ぶりに 母校の教壇に立つ

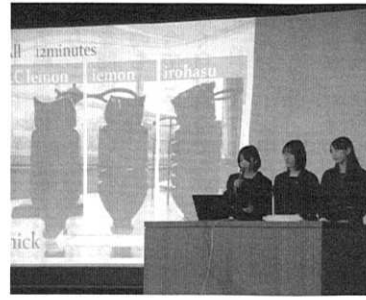
社会科 谷田 和久(高29回)



上溝南高校から母校厚木高校に着任することになりました。私の教員生活のスタートは、昭和57年に本校の非常勤講師として赴任したことでした。それ以来約30年ぶりに母校に戻りました。その間様々なことがありましたが、複数の高校等で学んだことを最大限生かし、母校での教育に役立てたいと思っています。高校時代の厚高の印象は、厳し

さの中にも、大いなる自由があり、とても温かく充実した日々を送った記憶でいっぱいです。久々に生徒たちの歌う校歌を耳にして、ますますその頃の記憶がよみがえる今日この頃です。余談ですが以前中村信行先生に、「自分の子供も厚高に入れるのが同窓生の使命だ。」なんてことも言われたこともあったのですが、その約束も果たすことができませんでした(娘は高59回生)。これからは、皆様のご期待に応えられるよう日々頑張っていくと思っています。宜しくお願ひ申し上げます。

平成25年度
スーパーサイエンスハイスクール
後期成果発表会
1年間の集大成を披露!
SSH



代表者のプレゼンの様子

を行った。ベストプレゼンターには、1年生が岡本康孝さん(1H)、2年生は2Bの10班と2Gの6班が選ばれた。

また、東京大学の金子成彦先生をはじめとした厚高SSH運営指導委員の先生や神奈川新聞等の報道関係者、ALIT(英語指導助手)の先生、他の高校の生徒も足を運んだ。

発表後の講評で金子先生は「英語を使うことを意識して、英語を学んでほしい」と語った。

工夫を凝らした
ポスター発表

午前中に新体育館及び旧体育館で行われたポスターセッションは、2年生は3〜4人がグループとなり研究したテーマを一枚のポスターにまとめて発表するというものだ。

ギャラリーには1年生と来賓の



発表をする2年生

方や他校の生徒、ALITなどが訪れた。ポスターを活用しながら分かりやすく発表をし、英語での質疑応答も臆することなく発表していることが伺えた。

100名以上が来校
英語が素晴らしい

発表会には外部からも大学やJAXAの方など100名以上が来校した。中でもALITの方は20名参加し、熱心に生徒の説明を聞いていた。午前中のポスターセッションの際、ALITの方に話を伺うと「研究内容がおもしろい。それから、英語がとてもよくできていて素晴らしい。頑張っていますね」とこやかに質問に答えてくれた。

『厚高新聞』号外版(26年3月17日)より

第46回 茅賞
演劇部部長の
井上乃茂さんに



茅賞は卒業する3年生の中で、学業、部活動、人物などあらゆる側面に優れた人物に贈られる。第46回目となる今年度の受賞者は井上乃茂さん(3A)だ。

成績優秀で何事にも真面目に取り組み、生徒会の会計も務めていた井上さん。また演劇部の部長としても立派に後輩たちを指導し、本人は1学年のとき県大会に出場している。

後輩たちへのアドバイスを訊

ねると「結局地道に、誠実に取り組んでいけばすぐに結果は出なくても最後にはおのずとついてくるものだ」と力強い表情で語った。

最後にこの3年間を振り返って、友人や後輩、先輩や先生など良い人たちに恵まれて、とても楽しい高校生活だったと嬉しそうに話してくれた。

『厚高新聞』第246号(26年3月17日)より

過去5年間の主要大学合格者数

[現役・既卒の合計数 ()は既卒者] 平成26年4月9日現在

学校名	26年春	25年春	24年春	23年春	22年春
国立					
京都	2 (1)	2 (2)	1 (0)	()	()
千葉	4 (0)	4 (3)	8 (1)	3 (1)	2 (0)
筑波	4 (1)	6 (1)	5 (1)	3 (1)	6 (2)
電気通信	4 (1)	2 (1)	3 (0)	5 (4)	1 (0)
東京	3 (1)	2 (1)	3 (0)	3 (1)	3 (0)
東京外国語	7 (1)	4 (0)	2 (0)	2 (1)	2 (0)
東京工業	6 (0)	10 (1)	5 (3)	6 (0)	6 (0)
東京農工	3 (1)	2 (0)	1 (0)	6 (2)	3 (0)
東北	2 (0)	3 (1)	1 (0)	2 (2)	2 (1)
一橋	5 (0)	2 (0)	1 (0)	2 (1)	3 (1)
横浜国立	12 (2)	20 (3)	17 (4)	21 (3)	19 (2)
国立計	77 (10)	80 (18)	72 (16)	71 (27)	64 (10)
公立					
首都大学東京	17 (2)	23 (5)	15 (2)	11 (3)	14 (2)
横浜市立	7 (0)	2 (0)	5 (0)	7 (1)	3 (0)
公立計	27 (2)	29 (6)	23 (2)	20 (4)	19 (2)
私立					
青山学院	54 (7)	72 (11)	63 (13)	53 (8)	52 (5)
神奈川	19 (3)	17 (3)	25 (14)	18 (8)	16 (1)
北里	24 (4)	20 (4)	16 (5)	19 (3)	15 (0)
慶応義塾	43 (3)	48 (11)	35 (6)	33 (4)	35 (4)
上智	34 (3)	55 (13)	24 (7)	32 (3)	14 (4)
専修	25 (2)	28 (8)	21 (8)	32 (12)	14 (1)
中央	64 (10)	78 (18)	62 (16)	79 (26)	67 (21)
東京理料	39 (13)	51 (9)	42 (11)	36 (4)	34 (7)
日本	39 (8)	32 (6)	27 (3)	23 (7)	14 (4)
日本女子	11 (0)	10 (1)	4 (1)	18 (2)	9 (0)
法政	61 (2)	56 (16)	46 (14)	36 (10)	38 (6)
明治	104 (24)	111 (24)	96 (23)	79 (21)	114 (21)
明治学院	42 (8)	43 (11)	43 (8)	30 (3)	24 (4)
立教	41 (2)	51 (7)	42 (11)	29 (6)	54 (7)
早稲田	71 (7)	101 (13)	94 (22)	79 (21)	111 (21)
私立計	924 (137)	1059 (210)	880 (220)	772 (207)	772 (128)

最近5年間の進学状況

卒業生進路	26年高66回	25年高65回	24年高64回	23年高63回	22年高62回
国公立大学	81	76	69	54	62
私立大学	179	191	175	180	180
短大/大専	2	1	3	1	1
専修学校等	0	0	1	2	2
進学者数計	262	268	249	237	245
入学率	83%	84%	78%	75%	77%
卒業生総数	315	319	319	316	318

平成25年度 部活動大会実績(県大会4位以上)

部活動名	受賞日	具体的名称	性別	種目・団体	成績
吹奏学部	4月6日	第11回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール	-	-	最優秀グランプリ賞
	11月3日	第19回日本管楽合奏コンテスト	-	団体	優秀賞
	12月22日	第38回全国高等学校総合文化祭茨城大会選考会	-	団体	1位
弓道部	4月20日	県民大会兼団体予選会	男子	個人	優勝
	5月3日	春季大会兼関東大会県予選	女子	団体	4位
	5月3日	春季大会兼関東大会県予選	女子	個人	2位
	11月3日	神奈川大会団体の部兼全国高等学校弓道選抜大会県予選	男子	個人	優勝
	12月21日	第32回全国高等学校弓道選抜大会	男子	個人	予選敗退
女子ソフトテニス部	4月28日	関東大会県予選	女子	団体	4位
陸上競技部	5月18日	神奈川県高等学校総合体育大会	女子	やり投げ	2位
	6月14日	関東高等学校陸上競技大会	女子	やり投げ	4位
	9月23日	神奈川陸上競技新人大会	男子	三段跳	4位
	10月20日	関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会	男子	三段跳	13位
	10月26日	Asian Youth Para Games Malaysia 2013	女子	100m	優勝
	10月27日	Asian Youth Para Games Malaysia 2013	女子	200m	優勝
	10月27日	Asian Youth Para Games Malaysia 2013	女子	走幅跳	優勝
山岳部	5月25日	関東高等学校登山大会県予選	男子	団体	優秀校
	11月8日	関東高等学校登山大会	男子	団体	参加
新聞部	8月2日	第17回全国高校新聞年間紙面審査	-	団体	優良賞
軽音楽部	8月4日	第3回アリオハイスchoolバンドバトルグランドチャンピオン大会	-	-	準優勝
	8月23日	第1回全国高等学校軽音楽コンテスト	-	-	2位・優秀賞
ダンスドリル部	8月25日	School & College Competition 2013	-	Song/Pom Dance 部門	2位
	11月16日	関東ダンスドリル秋季大会 高等学校の部	女子	団体	1位
	1月11日	全国高等学校ダンスドリル冬季大会	男子	Jazz 部門 Small 編成	1位
茶華道部	10月6日	Ikenobo 花の甲子園 2013 関東地区大会	-	団体	チームスピリット賞

支部会便り

伊勢原戸陵会

戸陵会は心のオアシス

卒業して45年目を迎えました。同窓会名簿への掲載もページが前の方になり歳月の流れを肌で感じています。

私の厚高入学の動機は、叔父(高7回卒)の影響が強くありました。物心ついた時、母の実家で目にした三剣の制服、この三剣のシンブルなところに心奪われたことは今でもしっかりと覚えていてます。

さて、私が同窓会と関わりを持つようになったのは就職7年目。職場の先輩から「高校の同窓会に顔を出して見ないか」と誘われたことがキッカケとなりました。

以来、今年で64回目を迎える伝統ある伊勢原戸陵会、当時は「白ふろしきに小倉服をなつかしむ会」の名称で学校の先生方が事務局となり、こみやと松屋で交互に懇親会を開催していました。会費は、当時も1万円。

今でこそ、飲んで・食べて遠慮なく自分自身でも楽しんでいますが、社会人7年目の私には鈍鈍たるメンバー(中村元伊勢原市長、石井元県議、山田元同窓会長など)を前に「ビール1杯を口にするのがやっとならした」との思いがあります。

平成2年、支部ごとの名称が統一され伊勢原戸陵会となったのち、事務局として数年活動してきました。その間、色々なことを経験して来ましたが、今でも自分を素直に



伊勢原戸陵会の前身(白ふろしきに小倉服をなつかしむ会)

褒められることは、100周年の節目事業を当事者として、11月の100周年本番に向けたイントロ事業のゴルフコンペ開催の役員会議や7月の伊勢原市民文化会館でのコンサート事業の準備に携わることが出来たことです。



2013年10月10日午前7時30分、平塚戸陵会の精鋭(?)8名が晴天の東京カントリークラブに集合し、第3回コンペを開催した。少しトリッキーなインコースから1組目の落合会長、和田昇二郎さん、八田正巳・育子さんご夫妻がまずスタート。インコースの1番ホールは20ヤードほど打ち下した後、10ヤード以上の打ち上げになるが、プレーの様子が後続の2組目には手に取るように観ることが出来るホールになっている。

2組目は鈴木宏久さん、前回優勝者の金子敏明さん、府川郁夫さんと渡辺の4名。昼休みに皆でそれぞれなんとなく全員のスコアの様子を把握しながらもおいしく昼食を取って、午後は南コースをプレーして全員無事に1日のラウンドを終了した。シャワーで汗と冷や汗をしっかりと流した後、コース内のレストラ内でパーティ兼表彰式を開催。ささやかなパーティではあるが、少しお腹が満ちてきた頃を見

を訪問し交流することが出来、今では心を豊かにする宝となっています。これからも、戸陵会を心のオアシスとして弾力性のある思考

平塚戸陵会

活動は小粒ながら肅々と

幹事長 渡辺 兼行(高19回)

計らって結果発表。優勝は不肖渡辺で、準優勝は和田さんという結果に從って、落合会長から賞品の授与を行って賑やかな表彰式を終わった。

座間戸陵会

座間警察署長を招き講演

会長 瀬戸 宏孝(高4回)

本会は、昭和61年に発足して早いもので30年を迎えます。会員数は約1000名を数え、毎年定期的に総会を開催し、その際各界の一線で活躍されておられる方を講師にお招きし講演を行い、会員の研鑽に努めています。

昨年7月の総会には、27名の方が参加し、私たちにもっとも身近な治安関係について、第一線で活躍をされておられる座間警察署の署長の陶山和美氏をお招きし、「市民のための警察」と題して治安についての取り組みについて講演をいただきました。犯罪の防止をはかるためには、何よりも市民の皆さんの協力が欠かせないというところで、昨年発生した放火事件は、市民の方の目撃情報が決め手になり逮捕に繋がったという事例も報



ゴルフコンペを行うなど、懇親を深めております。今後とも一層の会の充実発展を期すると、役員一同張り切っています。昨今

津久井戸陵会

総会で幻の「寮歌」を披露

今年は40年に1度という大雪に、同窓会の会員の皆様にも被害にあわれた方々には心より御見舞い申し上げます。

津久井戸陵会に於いては、その雪の山がまだそこに残る去る3月2日(土)、幸いにも天気予報の不安も失せ、同窓会本部より、さくら戸陵会会長でもある大井副会長、そして学校からは田中校長先生のご列席を頂き、遠くからは

鎌倉、横浜から、さらには今年初めてという4名の会員の方々の嬉しい出席もあり、総勢20名の会員を以て和氣藹々の中、主事業である平成26年。総会及び懇親会を実施いたしました。

当会は、その案内状に厚木旧制中学、高校の2つの校章を掲げるように、出席者も、中42回卒から高26回卒までとその層も厚い。中でも今年、自身稀少な寄宿舎生活経験者である高4回卒の門倉氏がその手によつて譜面を再生され、幻になりつつあった口伝の『好学校寮歌』の歌声を披露された。往時を見た人も見てない人も、知る人も知らざる人も共に歌い乍ら想いを馳せ、久しぶりに青春の熱き血潮に心を染められた楽しい一時を得られたのも、その一得と言えるでしょう。



広報委・菅野敬子(高18回)

相模原戸陵会

私とラグビーとの出会い

日本ラグビーフットボール協会役員 会田 彰(高18回)



厚木高校には昭和38年入学した高18回生です。高校時代はボクシング部に在籍して1回戦ボーイで終わりました。厚高時代はボクシングの他にも色々楽しい思い出があります。2年生の時に10人で裸を繋ぐ全校駅伝がありました。今同窓会の幹事をしている小島富司君がアンカーで校門前までトップで来ましたが、最後のグラウンドで3年生に抜かれて2位になり、中川先生と大変残念で悔しい思いをした記憶が今でも蘇ります。私はその時は真ん中の5区を担当してもう少し前との距離を短縮して置けばと反省したのを覚えています。また3年生の時は秋の体育祭で優勝して、佐藤先生とクラスの仲間全員で夕日の差す教室の中で万歳をして喜んだ記憶が、今でも鮮明に覚えています。

昭和41年に神奈川大学の貿易科に入学して大学での4年間何をしようか考えていましたが、厚高同期の伏見清君が先にラグビー部に入学して、私にも是非一緒に4年間ラグビーをしようとの誘いが有りましたので、5月からラグビー部に入学しました。大学時代は3年次にリーグ戦の設立が有り、我が神奈川大学もこの機会に参画してこの年にリーグ戦の2部で優勝を果たしました。大学の4年間でラグビーを完全燃焼する事が出来ませんでしたから、大学の先輩の誘いもありラグビーと貿易の仕事の両方が出来る英国系のコーンズ・アンド・カンパニーと言う商社に就職して10年間、仕事とラグビーの両立に頑張りました。仕事は輸出部に配属され事務機械、電気部品等を世界各国に輸出していました。現役10年間で会社のラグビー部の先輩がラグビー協会の仕事にボランティアで携わっていましたので、20代後半から私もその仕事を手伝う様になり、関東社会人ラグビーの幹事の一人として関東ラグビー協会、東京都ラグビー協会、相模原ラグビー協会の理事、相談役等に携わってきました。その間自分では30年余り現役で審判をして、在任中に足かけ10年程東京都ラグビー協会の審判委員長も務め、多くのトップレフリーの育成にも尽力して来ました。10数年前から日本ラグビーフットボール協会の社会人委員長兼団体の部門長を任されて全国各地を巡る忙しい日々を過ごしています。今でもラグビー協会の役員チームの一員として年に1回から2回ユニフォームを着て試合で汗をかいています。今年でラグビーと出会って50年目になります。

海老名戸陵会

純米酒にかける思い

泉橋酒造社長 橋場 友一(高39回)



米作りから酒造りまで手がける

私の家は江戸の終わり、安政4年(1857年)から続く酒屋で、私で6代目になります。厚木高校卒業後、大学に進み、大手証券会社を経て、19年前に家業に戻ったとき、酒屋が他所から買った米で酒造りをする事に疑問を持ち、平成7年に米の流通に関する法律が改正されたのを機に、自社での酒米作りを始めました。「酒作りは米作りから」をモットーに地元、神奈川県海老名市で、山田錦・雄町・亀の尾・神力などの酒米の栽培を広げ、今では自社栽培面積4ヘクタール、契約農家を合わせる30ヘクタール余りになりました。これは海老名市の田んぼの1割に当たります。あくまでも米からの一貫生産にこだわるのが、いづみ橋の酒造りです。

いづみ橋ではシンボルマークに赤トンボを使っています。赤トンボは田んぼで生まれ育つ生き物なので、農薬を減らせば単純にその生息数が増えていきます。大地を借りて作物を作り、それをもとに酒を醸して頂いている企業なので、当然環境保全を常に考える義務があると思っています。酒造業は、産業分類では工場に分けられてしまうのですが、いづみ橋の場合はむしろ農業に近く、農業抜きにしては成り立ちません。酒はいわば農産物加工品です。原材料の確保という意味だけではなく、お酒を通じて、田んぼの多面的な存在価値や、自然との共存を広く訴えかけたいと思っています。また平成18年からは、全てのお酒を「純米」にしました。年々アルコール添加したお酒(人工的に製造したもの)は減らしてはいたものの、全量純米に踏み切るのは、大きな決断でした。元来日本酒は、米と米麴で造ったものという、あるべき論はもちろん頭にあります。栽培に力を注ぐにつれ、大事に造った米を手塩に掛けて醸し、最後にアルコール添加する事に抵抗を感じるようになったのも大きな要因です。酒は食事のよき引き立て役と考え、食事に合う辛口(時には超辛口ですが)の酒質を目指しています。美味しいものを食べて、美味しい酒を呑み、それを共有する仲間がいれば、これに勝る楽しみはないと言っても過言ではないでしょう。



環境保全のシンボル「赤トンボ」

秦野戸陵会

第45回総会を開催

谷 茂氏(高22回)が新会長に

平成25年11月9日午後4時から、第45回秦野戸陵会総会が、市内「やなぎや本店」にて開催されました。第1部の通常総会では、任期満了による役員改選がされ、新たに、谷茂会長(高22回)と谷会長の後任の副会長に小澤和義さん(高24回)がそれぞれ選出されました。また、昨年に引き続き、総会・



毎回楽しみみな懇談会

中村 三恵(高63回)

秦野戸陵会総会に参加させていただきました。はじめは同世代の方がいらつしやらず、楽しみな反面、話が全くあわないのではないかと、う不安もありました。でも、その不安はすぐに解消されました。先輩方は皆とても思いやりがあり、さかんに私に話を振って下さり、毎回、楽しい時間を過ごすことができました。私は、懇親会で楽しみにしていることが2つあります。1つ目は、先輩が披露してくださるマジックショーです。初めて参加させていただいた折には、手から本物のハトが飛び出してきて本当に驚きました。また、マジックの腕前もさることながら、それを盛り上げる話術も巧みで、毎回、どんなことをやっていただけたのかと、楽しみにしています。

2つ目は、同窓会の最後におこなう、参加者全員による校歌斉唱です。正直、私たちの世代では校歌をみんなで歌う機会が少なく、私自身はまともに歌詞を覚えていませんでした。先輩方はさすがです。私よりもずっと以前に卒業されたにもかかわらず、校歌を完璧に歌われていて、並々ならぬ母校校愛を感じました。実は、厚高に応援歌があったことも、同窓会に参加してはじめて知りました。私はまだまだ未熟で、諸先輩方の足元にもおよびませんが、これからも同窓会に参加させていただき、いろいろなご教授いただければと思います。末永く、どうぞ、よろしくお祈りいたします。

愛川戸陵会



卒寿を前に憶う

小島 菊代 (中36回)

昭和12年入学、17年卒業の旧制中学の5年間と、化学教師としての5年間を、厚木高校でお世話になった。...

業後の学生時代の昭和18年夏、遠く満州ハルビン郊外の兵営まで先輩を訪ね慰問したのも、忘れられない。...

勉学はともかく陸上競技に熱中し、少ない部員で一致団結、3年時の県下大会で、全9種目中の6種目が1位で、...

厚木高校の陸上競技を語るには、忘れてならない人が、田中9回の元同窓会長岡崎勝男氏である。...

大和戸陵会

「三剣雑詠」

高橋 彦六

厚木なる 戸室の丘の学び舎は 阿夫利の四季を目交に建つ 学び舎は「尼の泣き坂」昇りつめ 羊歯の巨木の聳えるところ...

大和戸陵会会長 高橋武彦(高8回)

だが、同窓・陸上競技の縁で知己を得、種々大変お世話になった。毎秋「懐い出の杜に親しむ会」が盛大に行われている。...

藤沢戸陵会

千年とららんとて

森 正治 (高27回)

「曠一日而千里、驚馬十駕、則亦及之矣」(荀子)、

自営業(テニスクラブ)で時間之余裕があると思われるか、奉仕活動でここ15年ほどは藤沢市青少年指導員と併せて御所見地区青少年育成協会に所属しています。

青少年の非行防止を目的とした定期パトロールでの声かけ・環境浄化・あいさつ運動。健全育成を目的に、次代のリーダーを養成すべく、様々な行事を行っています。

子ども達を対象とした活動で、実施日が戸陵会と重なることが多く皆様に不義理をしています。

また、ここ数年は郷土づくり推進会議の委員で、「住み続けたい街湘南藤沢」を目標に、魅力的で誇りある新たな文化の創出や資源の発掘に動んでいます。

そこで、四半世紀の間、耕作放棄地に草に覆われていた畑に約500本のざる菊を植えました。3月末に昨年株から冬芽を取り、挿し木をして発根をさせ、5月初めにポットへ移植し、畑に防草用のマルチを敷いて、7月初めに定植しました。

管理としては、畝間の除草、虫と病気の消毒、徒長枝の剪定作業

報国林の発足であった。以来社に1番近い者として、守り育てて来た。同窓林の木々のように、母校厚木高校が益々発展充実して行くことを、心から願っている。

程度で、株は自然と約80cmのざるを伏せたような状態になり、栽培は容易でした。

11月10日の鑑賞会には、地域広報紙の宣伝もあって、域外からの参加を含めて大勢の来場者に恵まれました。

西にくっきりとした富士山の稜線と、稲が刈り取られた田んぼを背景にして、5色の花が整然と並び景色に満足して、賞賛とともに次年度への継続と規模拡大を期待する声を頂きました。

地域の活性化への一助として、緑にあふれた生活環境を促進し、自然や地域への愛着を高めることを目的とした「緑と花いっぱい運動推進事業」に取り組みしており、前年度は他所に花桃を栽培し、今年度は前述の展開となっているところですが。

しかしながら、企画会議では自ら提案する才覚もなく、「天馬行空」(史記 楽書)には程遠く「蒼蠅附驥尾而致千里」(史記 伯夷伝)のつもりでも、駿馬を見分ける見識も無いのが実情です。

せめて駿馬十駕と地道に努力するのですが、寿命の方が早く尽きそうです。

厚木戸陵会

仏像彫りに挑む

会長 遠藤 伸安 (高10回)



目下、不動明王立像に挑戦中

親切にも海老名の自宅で個人レッスンをやるので続けなかつたと言われ、それ以来現在まで同様の時間で毎週1回通っている。...

木彫を習いはじめて今年で19年目に入る。きっかけは特にない。その時はたまたまヒマだったからであろう。教室は一番街のあるビル4階にあった。週1回2時間のカルチャースクールで、申し込んだ生徒は私一人だけ。講師は当時20才半ばの若手彫刻家であった。他人事ながら採算を心配したが、その講師は2、30人の絵画教室でも教えていたため、兼業をしてくれたのであった。最初の作品は「リンゴ」。実物を観察しながら樟の木片から掘り出してゆく。

やがて2カ月程で本物に近い形になり、更に着色をすると鮮やかな「作品」となり、面白さを実感した。物を作る喜びを覚えた瞬間であった。

その後、小品を手がけるようになり、月日が経ったある日、そのスクールのオーナーの意向により教室は閉じられ、これでおしまいかと思っていた矢先、その講師が

「一昨年には横浜の金沢文庫で鎌倉時代の仏師運慶の作品を見る機会があり、その中で不動明王立像に感動を覚え、なんとかこれを再現出来ないかと思索。手本もなく難しいテーマといわれたが、結局本のカラーコピーを拡大したものモデルとし、細部は想像しながらやってみようということ。現在着手してから1年有余となる。高さ60センチ、重さおよそ10キロの作品だが過去の作品同様たっぷり漆を使い、純金の箔と粉を施し、せいぜい贅沢な作品にしたいと思っ

「うるしかぶれ」を覚悟しながら。

荻野戸陵会

荻野(厚木)の自由民権運動と

本校同窓生の先人たち

副会長(広報委員) 毛利 昇(高16回)



自由民権の里の記念碑

人を育てる風土というものがあ

厚木愛甲の中心的な自由民権運
動家の半数近くを荻野地区で数え
ます。その背景には、大山を仰ぎ
つつ、西山、鷲尾山、荻野川等の
恵まれた自然、また、大山街道と
甲州道(津久井街道)とその交差
する交通の要衝として栄えた宿場
町荻野新宿、さらには、江戸時代
後期の小田原藩の支藩の荻野山中
藩(石高一万3000石)の城下
町としての風情等が考えられます。
政治の中心の山中藩、経済を支え
おもてなしの心を醸成した宿場町
等、その心が今もつて受け継がれ
ている気がします。

板垣退助らが鮎料理最盛期の厚
木を訪れたのは、明治16年7月20
日です。妻田村永野家へ宿泊し、
翌21日に近隣町村から自由民権運
動家300余名が参加して相模川
遊船会が行われました。22日には
三田村清源院で800名が集い、
自由党演説会及び大懇親会が開催
され、一行は荻野へ宿泊していま
す。その際、自由党資金として党
員が寄付金の上納を行っている記
録があります。

荻野の自由民権運動については、
以前に三平明彦さん(高14回)も
「厚木連合戸陵会だより」に書い
ていますが、平成25年9月に開催
の荻野公民館主催(毛利和夫館長
子女・美由紀氏(高40回)、田中昭
一・上荻野分館長(高12回)による)
「荻野の自由民権運動家のゆかり
の地と史跡を訪ねて」におきまし
ても、「当時、神奈川の政治の中
心は愛甲郡であり、愛甲郡の政治
の中心は荻野であった。」とのこ
とです。それは資産家、宿場町等
からの資金カンパ等の支援や荻野
新宿の旅籠「松坂屋」(難波家・分
家の難波一彦氏・高4回、ナンバ
歯科医院の勝文氏・高30回)など
が民権家の集会場に頻りに利用さ
れるなど活動にも協力したことよ
るものが考えられます。そうし
た土地柄もあってか荻野から多く
の優れた自由民権運動家を輩出し
ました。

本校の同窓生の祖先もその中で
多数活躍しています。大矢正夫
(大矢純夫先生の祖先)は、高座
郡栗原村(現座間市)から荻野山
中学校教員として赴任し、北村透
谷とも親交がありました。
難波惣平(難波春美先生祖父)
は、国会開設請願運動では郡総代
として先頭に立っています。惣平
の妹八重は夫らの民権活動を支援
する組織の愛甲婦女協会の創立に
中心的役割を果たしたと思われ、

明治期における数少ない婦人解放
運動の先駆けでありました。
また、神崎英男荻野戸陵会初代
会長(高9回)の曾祖父神崎正蔵
家は、明治14年明治天皇が厚木に
巡幸の際、小松宮嘉彰親王の宿所
(明治天皇は妻田の旧家で、明治15
年2月の民権結社相愛社の結成に
は幹事として、翌16年の地元民権
家グループ学習会の講習会の結成
には常議員として活躍し、明治17

年には、減税請願運動総代人とな
って署名活動に奔走し、資金援助
等も行ないました。また、自宅敷
地内に自力で養蚕伝習所を設け、
社長に就任し活躍するとともに、
郡会議長を務めるなど地方自治活
動にも貢献しています。
自由民権活動家同志で相愛社創
立時の副会長で愛甲郡代表として
国会開設建言書を元老院に提出し
た霜島久園(戸室)は、本校の誘
致に尽力した人でもあります。

「芝田山部屋」の稽古を見学

小鮎戸陵会



芝田山部屋を訪ねた小鮎戸陵会の7人

去る12月上旬、相撲好きの小鮎
戸陵会会員7人が相撲部屋「芝田
山部屋」を訪れ、稽古見学を行
いました。芝田山親方といえば、第
62代横綱「大乃国」として、昭和
最後の一番で、横綱「千代の富士」
の連勝を53で止める等、記憶に残
る力士です。また「スイツ親方」
として甘党で知られ、テレビなど、
マスコミにもよく登場しておりま
す。

この日、京王・井の頭線「高井
戸」駅から徒歩数分の芝田山部屋
に到着したのが、午前9時。すで
に、稽古は佳境に入り、力士たち
年には、減税請願運動総代人とな
って署名活動に奔走し、資金援助
等も行ないました。また、自宅敷
地内に自力で養蚕伝習所を設け、
社長に就任し活躍するとともに、
郡会議長を務めるなど地方自治活
動にも貢献しています。
自由民権活動家同志で相愛社創
立時の副会長で愛甲郡代表として
国会開設建言書を元老院に提出し
た霜島久園(戸室)は、本校の誘
致に尽力した人でもあります。

睦合戸陵会

奇妙な話「血液型が変わった？」

会長 下川 信好(高14回)

見学を通して、力士たちの真剣さ
や直向きさを感じ、改めて日本の
事。始まりは、私が58歳の時で
した。毎年2回献血していたので
すが、その採血で「あなたの血液
型はA型ですね」と言われた。
「それはいいですよ！私は50数
年O型で生きているのですよ。」
と強く反論したのですが、採血し
た日本橋クリニックの職員の方さ
んは、「あなたは今までが間違っ
ていたのです。」と繰り返すばか
りでした。そんな疑問を東京実業
保険の健診センターに週1回来て
いた東京医科大学の宮澤先生に相
談にいったのです。先生は即座に
「A型と言われたらどう。そして
寒い日、身体が冷える時にはコ
ーラのような黒い尿が出るだろう。
それは赤血球の色素が破裂して起
きるのだ。」とズバリ指摘された
のです。

伝統文化のよさを体験できました。
広報委・頼住道夫(高22回)
頻度は溶血性貧血中4%を占め、
国内発症例も年間2〜3人と稀で
ある。C・A・Dでは自己血球凝
集によりABO式血液型のオモテ、
ウラ試験不一致などが起こる事が
知られている。今回健診にて偶然
発見されたC・A・Dの一症例を
経験した。本症例は寒冷凝集素の
高力価のために室温下で血球凝集
および溶血を認め寒冷凝集素価の
上昇が長期間にわたり持続したた
め文献的考察を加えて報告する。」
と書かれていました。その他初診
時現症から、初診時検査成績、D
—L抗体および寒冷凝集素価、寒
冷自己抗体の反応温度域の検査、
そして考察、文献まで6ページに
渡り、各検査データおよび説明
が記載されていました。
このC・A・Dの症状は本人が
気を付ける以外にないため、常に
寒さには注意が必要です。ドクタ
ーからは冬の通夜、寒い日のゴル
フは特に注意と警告を受けていま
す。今のところ身体を暖めること
で症状が良くなり、正常な生活が
できます。そのため「日帰り温泉」
を中心に年間多量で50回を超え
る事もありました。今は定年退職
し東京も遠くなり、近くの東海大
学医学部付属病院に移り、月に1
回〜2回ほど全血、血漿、血清の
採血検査に行きます。早く暖かい
春が来るのを待つ一人です。

玉川・森の里戸陵会

「小野小町」ゆかりの地、厚木市小野

山口義章氏(高15回)に聞く

玉川地区に「小野」という地名があり、昔から「小野小町出生の地」と言われています。今回の支部便りには、小野小町伝説の保存を目的に活動している小野小町研究会事務局長の山口義章氏(高15回)に「小野小町について」の話を伺いました。

小野小町と言えば平安時代初期に活躍した有名な六歌仙の一人で、絶世の美女だったと言われており、知らない人はいないと思います。しかし、これだけ有名な人でありながら、生まれた場所、亡くなった年も場所も分かっていません。そのためか、生まれた場所や亡くなった場所にまつわる伝説が全国各地に語り継がれているということでした。

当地、玉川の小野にも小町の生誕地との伝説が昔から語り継がれ、小町山なる山の頂に小野小町を祀った小町神社があります。加えて、①小町松(片葉の松)、②小町池



小町伝説(小町の七不思議)を今に伝える小町神社



—昨年の「第1回小町まつり」

(化粧池)、③小町井戸(化粧井戸)、④小町竹(業平竹)、⑤小町塚、⑥小町橋(小町の七不思議)、⑦小町海苔、といった「小町の七不思議」として伝承されてきている。そこで、玉川地区の有志が集まって「小野小町研究会」を組織し、伝承話が風化しないようにと小町伝説の遺跡の復元、ならびに保存・伝承活動と小野小町研究活動をしていきます。

一昨年より「小町まつり」を開催し、今年は第3回目を迎え、山口氏は事務局長として小町まつりの推進役を務めておられます。「玉川の小野へいらっしやっした時には、ぜひ、小町山(標高127m)に登り小野小町に想いを馳せていただければ幸いです」とのことでした。

広報委・三橋敬司(高18回)

南毛利戸陵会

希望を照らす診療所に

医学博士 内山 順造(高33回)

個性派俳優の六角精児くんは同期の友人です。「えオアオアエイウ」、彼のダミ声の発声練習を聞きながら、私は放課後、正門右のオンボロ部屋に籠って厚高新聞の論説を書いていました。数学は赤点でも、生意気に社会学や政治学の本を読んで正論を語り、周りの女の子に煙たがれる。そんな独りよがりな青年はルポライターになりたいと思っていました。

その夢を打ち砕いたのが一年先輩の横内謙介さん脚本・六角精児くん主演の演劇「山椒魚だぞー」です。体育館での観劇のあと、しばらく口がきけなかつた。そこには、自分の惨めな真実と疾風怒濤の混乱と情熱が映し出され、優しさで希望が伏線に流れていました。借りてきた正論に誰も感動しない。真実と愛と希望が人を動かす。そんな文学的才能は自分には無いことをこの時悟りました。

遅ればせながら数学の勉強を開始、浪人生活を送った末、地方の国立医学部になんとか入学。卒業後は消化器内科医として研鑽を積む傍ら、米國ハーバード大学の癌

研究所で老化のメカニズムを研究。昨年春より実家のある愛甲石田駅前で「南毛利内科・抗加齢人間ドックセンター」を開院しました。「老化」は自然の摂理で抗し難いものという考えは、最新の医学研究の中で変わりつつあります。不死は無理でも120歳の最長寿命まで元気であり続ける方が少しずつ解ってきているのです。方策は1つではなく、いくつもの作戦を習慣的に積み重ねる必要があります。まずは、網羅的な健診・癌検診を定期的に行うこと。更に現在の自分の各臓器がどの程度老化しているのか確認すること(血管・骨・筋肉・脳年齢測定)。その上で5年後の目標を設定し、運動・食習慣・社会環境を修正していく必要があります。



老化予防の「脚本」を書き続ける

相川戸陵会

ボタンは黙して語りず

会長 高橋 将(高14回)



3年前発見時の制服とボタン

だった農家では大変な苦勞であったと思われる。経済的に十分な余裕がない中で子供たちに中等学校進学をさせた背景はどこにあったのか。私の祖父で叔父の父にあたる人は、日露戦争に出征した。旅順の要塞攻撃や奉天の会戦で多くの兵士が死傷する中、祖父は無事に帰還した。無事の一歩の理由は、祖父が「読み書き」を能くしていたことで、前線に出るよりも後方で事務作業に従事させられたことによるものと思われる。「日露戦争」は近代戦の序幕とも言われ、殺傷力のある兵器で多数の兵士が瞬時に命を落とす状況から学問を付けさせることで、子の命と「家」の存続を図れると判断したと思われる。

叔父の5年間の厚木中学の生活や気持ちなどなんでもあったのか直接会話をする機会が無いうちに叔父は鬼籍に入ってしまったが、妹である母が子供の頃、大正デモクラシーを背景として生徒のストライキがあり、その責任を問われて親友が退学処分となった。その出来事に嫌気がさしたのか、弟には厚木中学でなく藤沢に新設された湘南中学へ進学を勧めたという叔父達が何に対して反旗をひるがえしたのか、またその結末がどうであったのか、知る資料は何も無い。1つあるボタンがその様子を見、叔父の胸の内を知っているのだが、それを語ることは永遠にな

健康長寿の方にお会いすると、多くの方が自分の真実に向き合う勇氣を持っています。勇氣を持って診療所にこられた方に愛情を持って真実を伝え、5年後の希望と一緒に見つめる作業は、主演に合った脚本を書くことに似ていると最近、気づきました。

同期会便り

高18回 「青春グラフィティ18 真の青春を求めて」

創立110周年記念行事に参加するなかで、「18回同期会」を開催しようという機運が高まり、各クラス2〜3名の幹事団、代表幹事として小島富司君を選出し、平成25年11月17日にレンブランドホテル厚木に於いて開催いたしました。およそ10年ぶりの同期会のキャッチフレーズは「青春グラフィティ18、真の青春を求めて」ということで、「人生の節目を迎え、青春の思い出帳を振り返ろう」をテーマに87人が集いました。来賓としてC組担任の小林正義先生、D組担任の黒田和雄先生のお二人のご参加を得て楽しい一時を過ごす事ができました。中には、何十年ぶりに再会した友人との語らい、先生を交えての思い出話、クラス毎に登壇して青春時代の思い出帳をひもといたりと充実した時間を過ご



高18回同期会に87名が参加

す事ができました。また、フィナーレを懐かしい「厚高校歌」の大合唱で締めくくり感激の同期会となりました。「同級生っていいなあ」が全員の想いだつたと確信しています。二次会は本厚木駅前のレストラ

OB会便り

きっかけは「かながわ校歌祭」

吹奏楽部OB 石射 正英(高24回)



いきなり演奏するのは気が引けるのか、見学という仲間もいました。まあ実力が実力なので、これならできると思ったのでしよう、すぐに仲間入りとなりました。

第6回「青春かながわ校歌祭」でのことでした。厚高の出番となりましたが、用意したCDがうまく作動せず、伴奏なしでの校歌披露となりました。「プラバンがいるじゃないか」この時に参加していたプラバンOBは、次回は生で伴奏しようと思いい立ち、高24回卒を中心とした10数名が声をかけられました。

密かに練習を始めたころ、応援団OBの重鎮である難波浩先輩に「校歌祭でプラバンOBが生で伴奏したいのですがいかがでしょう」とお伺いしたところ「それはいいね」とご賛同を頂きました。当バンドのデビューは110周年記念祝賀会のレンブランドホテルでした。応援団の指揮の下で、応援歌と校歌を伴奏させて頂きました。以来、毎年の校歌祭、野球の応援(一部のメンバー)、私の厚高関係者の支援団体「厚英会」などで演奏を行っています。また、昨年は厚高応援団OB会創立30周年記念式典にもお声をかけて頂き演奏させて頂きました。

ン「ボン」で、54名が楽しかった雰囲気のまま移し、賑を切ったようにいろいろな話の華が咲き、時間が経つのも忘れてしまうほどでした。

今回の同期会として、会費の中から15万円を厚高同窓会本部へ寄贈しました。

次は、70歳の節目で「18回同期会」を開こうといった声があがり、今回の幹事団を含め新たな幹事団を組織して実施する方向性が出されました。ぜひ、一人でも多くのご参加を期待しています。

同期、菊池原康夫君を偲んで

柔道部OB 安藤 和次郎(高9回)



ありし日の菊池原康夫君(右)と

60年前、憧れの母校へ入学。早々に菊池原康夫君らと伝統ある柔道部へ30名余の新生と入部。県下一といわれたスプリング式80畳の道場で師範山崎勝治先生のご指導で残暑・寒稽古を通じ鍛えられたことは今でも誇りとしています。

菊池原君とは1年D組の同じクラスで彼は柔道部主将。応援団副団長藤田俊雄先輩の応援指導での「勝利の拍手」を見て感激し、応援団の幹部に志願したと3年前「先輩を偲ぶ会」で多くの参加者の前で追悼の挨拶をしました。

2年の夏、合宿練習があり、参加者総勢30名余のうち同級生は菊池原君と2人だけが合宿、他の部員は自宅から通いで参加したもので、稽古は上・下の部員と競い一番厳しい体験でした。

昼の休み時間に母校のプールで泳いだり、水泳部の先輩から「挨拶なしで入った」と、強く注意されたふたりはプールの中、直立不動の姿勢でお説教を聞かされた。挨拶するのは当然で若き日の過ちであった、今では2人だけの秘密となっていました。

3年の6月、関東大会県予選は

「紅顔の美少年」も今や「厚顔の中高年」になっており、どこへでもうぞお気軽に声をかけてください。

も厚かましく参上いたします。どうぞお気軽に声をかけてください。

団体へ出場した加藤克彦君ら選手

の活躍でベスト3となり、関東大会への出場を果たした。目標に向かって部員全員が連日選手稽古台となり猛練習したもので、本厚木駅前の壮行会では校歌・応援歌で送り出した。自分らの時に部の伝統を守れたことにひそかな誇りと恩師・先輩のご指導に感謝しています。

柔道部OB会は34年前、山崎先生の号令で誕生し毎年開催(連絡可の会員477名、平成12年7月の20周年には記念誌が発行され多くの来賓、OBが参加して盛大に行われた。ちょうど山崎先生の13回忌にあたり、難波一彦(高4回)、島村勘一(高6回)両先輩らのご仏前へ報告されました。

同22年6月の30周年記念には近藤俊二同窓会長(高6回)の「厚高同窓会への熱き思い」と題しての特別講演と島村勘一先輩の「講道館8段昇進の祝い」が盛大に行われ記念品も戴いた。私も共に第1回から大きな節目の行事にも参加することが出来た。しかし24年6月OB会の重鎮、難波一彦先輩が80歳で旅立たれた。多くのOB・関係者らと共に菊池原君のご冥福を祈ったものです。ケジメある部活動に取り組んだ日々が人間形成の基盤となったもので、私にとって彼の存在なしではOB会は語れないほど感謝しています。

昨年1月に連絡を受け、彼の入院先へ見舞いに行った時も同期会

のことを大変気にしていた。快気祝いまで貰い一時は回復したが、3月に入り容態が急変し遂に天国へ先に旅立ってしまった。

葬儀には彼の上下区別ない誠実な人柄と母校愛の功績を偲んで、応援団OB・柔道部OB・愛川戸陵会・同級生等多数の皆さんが遠方にもかわらさず参列戴いたもので感謝しました。昨年11月、2年ぶりで「9回卒の同窓の集い」が開催され、彼に代わり司会進行役を担当。締め挨拶で田園調布に住む同級生が前年、散歩から帰る時に校歌が流れてきたと挨拶。写真を探したらその日は母校の野球部の3回戦が等々力球場で行われて、3対1で勝利した試合。近藤前同窓会会長・大谷哲郎先輩らと共に菊池原君と懸命に応援した時の「勝利の校歌」が多摩川を越えてきたものと確信し、感激した。次は9年ぶりの4回戦出場での慶応義塾戦は都合で行けず、彼とはこの試合が最後の応援となりました。

昨年12月7日藤田先輩のご命日に八王子の墓地へ行き、あの世で菊池原君との再会を祈ってきた。又何度も「勝ちゃんに会いたい」と彼を誘って茅ヶ崎市にある山崎先生の菩提寺・海前寺へ墓参したものでした。嗚呼。

計報を聞き茅ヶ崎のご自宅へ甲問したとき、自宅の庭には岡部誠君らが県立園芸試験場で研究改良した何本もの「ハナモモ」が大きく育っていて、毎年可愛い花が咲き楽しんでいたらと奥様から伺いました。

ここに謹んで菊池原康夫君のご冥福をお祈り申し上げます。平成25年3月28日 逝去

会章

同窓会本部役員・理事・支部役員 (平成26年5月1日現在)

【同窓会本部役員】

- 会長 石川 範義 (高10)
副会長 難波 浩 (高11)
副会長 杉田 泰繁 (高14)
副会長 曾根 秀敏 (高14)
副会長 八木 一郎 (高14)
副会長 泊瀬川 孚 (高14)
副会長 杉崎 秀夫 (高17)
副会長 小島 富司 (高18)
副会長 大井 理恵子 (高18)
副会長 廣木 孝幸 (高19)
監事 金子 輝司 (高15)
監事 松永 光弘 (高24)

【同窓会本部事務局】

- 事務局長 伊藤 修治 (高17)
事務局次長 石塚 修 (高28)
会計 足立原 泰 (高12)
計 足立 一彦 (高17)

【理事】

- 1 八木 伸一 (中40)
2 高橋 武彦 (高8)
3 遠藤 伸安 (高10)
4 梅澤 文明 (高11)
5 町山 良行 (高11)
6 井出 照雄 (高11)
7 城所 文洋 (高11)
8 高橋 増次 (高11)
9 花上 肇 (高11)
10 高橋 力 (高18)
11 落合 重治 (高13)
12 館盛 勝弘 (高14)
13 大矢 正次 (高14)
14 石射 隆宏 (高14)
15 下川 信好 (高14)
16 高橋 将 (高14)
17 鶴指 眞澄 (高15)
18 志村 昂二 (高15)
19 新倉 正治 (高15)
20 石川 武久 (高16)
21 森久保 純生 (高16)
22 都高 泉 (高17)
23 小林 義廣 (高18)
24 星 博美 (高18)
25 花田 泰子 (高20)
26 阿部 洋 (高22)
27 眞崎 和秋 (高22)
28 八田 育子 (高24)
29 剣持 典子 (高26)
30 大塚 朋子 (高26)
31 齋藤 昌裕 (高26)
32 今井 雅裕 (高26)
33 高橋 昌和 (高27)
34 山本 智子 (高28)
35 関野 俊之 (高28)
36 伊藤 学 (高30)
37 葉山 真弓 (高30)
38 土屋 由子 (高32)
39 長田 靖子 (高33)

【各地区同窓会支部】

- 1. 伊勢原戸陵会
会長 高橋 力 (高18)
事務局長 小川 均 (高22)
2. 秦野戸陵会
会長 谷 茂 (高22)
事務局長 古屋 一恵 (高28)
3. 津久井戸陵会
会長 奈良 雅之 (高8)
事務局長 小林 義廣 (高18)
4. 平塚戸陵会
会長 落合 重治 (高13)
幹事長 渡辺 兼行 (高19)
5. 横浜会
会長代行 長田 敬幸 (高7)
事務局 春木 健作
6. 相模原戸陵会
会長 金子 輝司 (高15)
事務局長 三沢 賢一 (高21)
7. 座間戸陵会
会長 瀬戸 宏孝 (高4)
幹事長 山本 愈 (高11)
8. 愛川戸陵会
会長 梅澤 文明 (高11)
幹事長 大貫 邦重 (高16)
9. 川崎市多摩麻生戸陵会
会長 町山 良行 (高11)
10. 綾瀬戸陵会
会長代行 新倉 正治 (高15)
事務局長 笠間 城治郎 (高14)
11. 海老名戸陵会
会長 杉崎 秀夫 (高17)
事務局長 鶴指 眞澄 (高15)
12. 三浦半島戸陵会
事務局長 伊藤 学 (高30)
13. 大和戸陵会
会長 高橋 武彦 (高8)
事務局長 長田 靖子 (高33)
14. 藤沢戸陵会 (旧御所見)
会長 泊瀬川 孚 (高14)
事務局長 大貫 睦男 (高17)
15. 厚木連合戸陵会
会長 石射 隆宏 (高14)
幹事長 森久保 純生 (高16)
事務局長 平野 亮二 (高27)
16. 厚木戸陵会
会長 遠藤 伸安 (高10)
事務局長 池田 清 (高19)
17. 依知戸陵会
会長 都高 泉 (高17)
事務局長 大塚 憲二 (高18)
18. 睦合戸陵会
会長 下川 信好 (高14)
事務局長 小島 勉 (高22)
19. 荻野戸陵会
会長 花上 肇 (高11)
事務局長 伏見 清 (高18)
20. 小鮎戸陵会
会長 志村 昂二 (高15)
事務局長 森久保 純生 (高16)
21. 南毛利戸陵会
会長 神崎 愷 (高13)
事務局長 小淵 正志 (高18)
22. 玉川・森の里戸陵会
会長 高橋 増次 (高11)
事務局長 山口 義章 (高15)
23. 相川戸陵会
会長 高橋 将 (高14)
事務局長 山口 正春 (高17)
24. 清川戸陵会
会長 石川 武久 (高16)
事務局長 相原 栄一 (高20)
25. 新潟戸陵会
会長 青木 茂治 (高9)
事務局長 齊藤 勝司 (高8)
26. 関西戸陵会
会長 齊藤 十内 (高16)
事務局長 福本 豊 (高28)



http://www.atsukou-dousou.org

同窓会本部では、公式ホームページを開設しています。主な内容は次の通りです。

同窓会ホームページのご案内

- 【同窓会概要】
本部役員紹介/会則/母校教育振興基金規定/活動活性化補助金交付要綱/会費についてなど
【学校の歴史・校歌】
沿革の概要/県立第三中学校創立略史/同窓会の歴史など
【お知らせ】
同朋会・OB会情報/バックナンバーなど
【総会報告】
総会資料/写真集など
【支部会のご案内】
各支部の活動報告など
【同窓会会報】
会報バックナンバー/各支部会報/部活OB会報など
動画や写真など、多彩な内容でお伝えしています。

事務局便り

事務局スタッフ8名に

学校情報らんで報告した通り、中山鉄也(高29回)、内田憲夫(高30回)の両先生が異動され、新たに谷田和久先生(高29回)を迎え、8名の校内役員で同窓会の活動に協力してまいります。
・事務局次長/須藤福治(高28)
・事務局総務/吉垣 武(高39)
・同窓会名簿/吉垣 武、須藤福治
・谷田和久(高29)
・会計・本部/三橋 功(高38)
・壺井尚子(高37)
・内野英明(高30)
・松田浩幸(高54)
・松田浩幸(高32)
・校歌祭/木村和彦(高32)
・松田浩幸

編集後記

6年後の東京オリンピックに因んで、「厚高とオリンピック」の関わりを取材。50年前(昭和39年)の東京オリンピック当時、自身高校1年で、しかも厚高新聞委員会の新米記者兼カメラマン。今回小俣先輩に借りた当時の写真・資料は、なんと『厚高新聞・速報』でした。
●1924年(大正13年)のバリオリンピックで活躍された岡崎勝男氏は、終戦直後の1945年9月2日、戦艦ミズリー号上での降伏文書調印式に重光葵外相とともに参加。この調印式でのハプニングとその数時間後のスリリングな「大事件」と岡崎氏の活躍はNHKのドキュメンタリー番組にもなりました。

平成23~25年度 広報委員会委員 (平成26年4月1日現在)

Table with 5 columns: 役職, 氏名, 卒回, 所属戸陵会, 連絡先. Lists members of the Publicity Committee across various branches.